

*** 今日の健康 (12月) ***

< オミクロン >

東京都の新型コロナウイルスの感染者数は次第に減少し最近では1日の感染者数が20人前後となっています。しかしながら11月26日に南アフリカで新種のコロナ変異株が報告されました。

南アフリカで確認された B. 1. 1. 529 (オミクロン) は約2週間前に発見された変異ウイルスで、一部の地域で急速に広がっていることが確認され、

WHOは11月26日に、この変異ウイルスを「オミクロン」と命名し、あわせて「VOC (懸念される変異ウイルス)」に指定しました。オミクロンの感染者はすでに国境を越え、12月3日の時点で確認されているのは南アフリカ、ボツワナ、香港、ベルギー、イスラエル、ヨーロッパ、カナダ、オーストラリア、アメリカ、日本などの世界の30超の国と地域で確認されています。

2021年11月26日時点 の情報に基づき作成	アルファ α	ベータ β	ガンマ γ	デルタ δ	オミクロン \omicron
最初に 見つかった国	イギリス	南アフリカ	ブラジル	インド	南アフリカ
感染力	↑	↑	↑	↑↑	↑↑↑?
重症度	↑	?	?	↑	↑?
ワクチン 効果低下	X	○	○	○	○?

オミクロンはこれまで南アフリカで流行していたデルタを上回る勢いで増加しているため、「デルタよりも伝播性が高い可能性がある」との指摘があります。ヒトヒト感染の伝播性が高くなると新たな大きな流行へとつながる可能性があります。

感染力の高い株が生き残るという考え方があります。このウイルスの感染のしやすさに影響するスパイクタンパク質の中にも32カ所の変異があることがわかり、オミクロンの変異の「多さ」は目立ち、注目されることになっています。

スパイクタンパク質とはウイルスの表面に存在する突起で、この突起がヒトの細胞の表面にある「ACE2」という分子とくっつくことにより、ウイルスが細胞の中に入り、「感染」が引き起こされるこの部分のことです。

オミクロンは感染性（感染しやすさ）や伝播性（広がりやすさ）などへ影響を及ぼしている可能性があるため注意が必要です。

しかし、感染性や伝播性に大きな変化が見られるとしても、オミクロンの毒性がどうかは現在の所分かっていません。また、ウイルスの変異に関する話題は空振りに終わる可能性も少なくありません。もちろんデルタ株の時のように大きな影響を与えることがありますので、警戒をすることは悪いことではないですが、個々人の対策が変わらないことを踏まえると現時点で騒ぎすぎる必要もないと思います。

日本でこれから始まる追加接種には間に合いそうもありませんが、オミクロンに対してワクチンの効果が低く、免疫回避があると判明した場合、欧米の各ワクチンメーカーは、mRNAワクチンの改良そのものはそれほど難しいプロセスではなく、オミクロンに対応した新しいmRNAワクチンの産生は対応が可能で、3ヶ月で量産が出来て市場に出回るとしています。

オミクロンの毒性が強いのか弱いのかまだ判明していませんし、重症化事例は今のところ報告されていません。軽症か無症状という情報が殆どです。この推移を冷静に見守っていくのがよいと思います

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り もみじ山公園バス停裏